

令和8年度 第2回学校運営協議会 議事録

令和8年7月17日 金曜日

15時00分 視聴覚室

※内藤剛委員、小尾篤志委員、雨宮洋委員、廣瀬はるみ委員は欠席

※事務局として、総務、生徒会、研究研修、各学年の主任が参加

(1) 開会の言葉 (司会)

- ・日程変更についてお詫び
- ・本日は議事なし
- ・本日欠席者がいるが、過半数の参加があるため会は成立している

(2) 学校長あいさつ

- ・日頃からの支援に感謝
- ・55分授業について生徒の評価もよい。より充実した学校生活が送れるよう実践を進める
- ・学年、分掌からの報告への忌憚のない意見をいただきたい

(3) 副会長あいさつ

※会長、副会長不在のため割愛

※前回欠席者がいるため自己紹介 (委員→本校職員)

(4) 報告事項 ※議事なし：議長不要

①学年の運営状況について (学年主任)

- ・1学年から資料説明。終了後、質疑応答 (ここではなし)
- ・2学年から資料説明。終了後、質疑応答 (ここではなし)
- ・3学年から資料説明。終了後、質疑応答 (ここではなし)

②部活動の状況・高校総体の結果について (生徒会)

- ・生徒会主任から資料説明。
開閉会式の式典担当として本校が関わったことを補足
各部の結果詳細は資料を提示
- ・質疑応答なし

③第43回紫映祭について (生徒会)

- ・生徒会主任が資料説明
6月に無事に実施できた旨報告
- ・質疑応答無し

④広報活動及びPTAとの連携について (総務)

- ・総務主任が説明

別添資料の紹介（学校パンフレット、TRYSHOWA）

学校パンフレットは高校生活３年間の流れが分かるような体裁にしてある

TRYSHOWAは中学生に向け高校受検を応援するような意図で作成している

- ・PTA活動が縮小している中で、活動機会を見出せるような取り組みを行っている

学園祭の際は数多くの協力が得られた。今後も学校運営がスムーズに行えるようPTAの協力を得たい

- ・PTA全国大会はオンライン参加とし、学校内でも関係する者が視聴できる環境をつくっている

⑤探究活動について（研究研修）

- ・研究研修主任から資料説明

各学年の探究活動の柱を説明

7月20日に2年生の代表が県のイベント（シンポジウム）に参加する。今後の活動の調整に活かしていく

⑥強歩大会について（校長）

- ・校長から資料説明

過去2年、荒天により中止となっている。3年ぶりの実施を計画している

安全を最優先で実施するが、保護者の協力が無いと実施できない

PTA協力の可否を現在調査中である

⑦今後の運営協議会日程について（司会）

- ・教頭から説明。資料のとおり

開催日の1ヶ月前に連絡する

⑧その他

- ・事務局からは無し

- ・委員からは無し

（５）意見交換

石原：1学年の探究項目とは？

小泉：各企業が提示した11項目となる

大木：昨年度の例は「知名度をあげる」などがあった

村松：エネルギー教育とは？今まで聞いたことがなかった。経緯や内容が分かれば紹介を。

大木：数年前から実施している。国の予算。今年度は原子力について学習する

池田：3年生の進路について。大学側も出前講座や大学での講座を用意している。これらの取り組みへの意見や要望があれば聞きたい

青柳：科目履修制度について。単位認定を考えると平日の放課後の参加は厳しい。

新設される工学系の分野について、説明は聞きたい。

大学のイベント等は学校側からアナウンスし個々の判断で申し込んでいる。

高島：6月くらいまでは運動部の生徒は大会との兼ね合いで参加しづらい。土日のイベントであっても同じ理由で参加しづらい。夏休みなどに集中的に実施していただけると参加しやすくなる

村松：55分授業について。好評と言うことであるが具体的に状況を紹介できるか？

細田：午前3コマなのでゆったりした一日になっている。

授業の導入と振り返りがきちんとできるので、内容の定着には繋がりやすいと感じている。授業の充実という点でメリットはある

大木：実技科目では主要な実技の時間が多くとれるので有効

高島：生徒から批判的な意見が出ることを想定していたが、今のところはない

村松：55分授業によって職員の退勤時間が遅くなったということは無いか？

高島：遅くなっているという実感はない

小泉：金曜日の放課後の時間は生徒にも職員にも好評である

深澤：過日、甲府昭和高校と意見交換できる場が持てた

高校総体の結果を見て、昭和高校が文武両道を実践していることが実感できた

小さな町に進学高校があること、若者が往来すること、活気づくりのために昭和高校の存在は大きい

山梨シンポジウムへの参加を楽しみにしている。しかし、説明のあったことについて率直な印象としておもしろくない。理由として、設定されたテーマ等が「生徒が本当に学びたいこと」なのか、学びの「深化に繋がるもの」なのかという疑問がある

探究の時間がどの程度設定されているのかが分からないことと、義務と高校の違いもあるが、地域の農産物について調べ、探究課題にすることもよいのではないか

大木：生徒の状況を分析し、課題設定力が全体的に低いと感じている。そのきっかけ作りとして企画しており、探究テーマのモデルに取り組むことで、探究活動のサイクルを身につけるプログラムとしている。今回紹介したものは、大項目であり、実際の講座では具体的な課題が提示され、それに対して、生徒それぞれの興味関心に合わせて、テーマを深掘りできるようにしている。こういった取り組みを重ねて、3年生になった時に、自己実現について、主体的に考えることができればよいと考えている

萩原：BYODの活用、操作スキルの習得状況などはどうなっている？

小泉：学年の運営状況で紹介したとおり、授業だけではなくHR等の連絡でも使用している。操作自体は中学の頃から使用しているので慣れているが、PCを使いこなすという点では、まだまだトレーニングが必要だと感じている

萩原：A I の活用については？

高島：B Y O Dで利用できる生成A I には、教育委員会によるセキュリティーがかかっており、校内の情報が生成A I の学習資料となることはない。生成A I の活用方法は模索中であり、検討課題となっているが、利用者としてのモラルやリテラシーの成熟は必要かと思う

若尾：同窓会として。学校との関わり方は話題になっている。探究活動のところで話題になっていたが、生の社会課題を抱え、実際に取り組んでいる同窓生も多い。次年度のカリキュラムに組み込んでもらえればと思っている。また、税理士として、租税教室も行っている。山梨県は実施率も高いので、同窓会に声掛けをいただきたい。

高島：進路や関係係と調整する。巣立ち教室として活用も考えられる

(6) 閉会の言葉

終了 16時15分

記録 渡邊 有信